



オーストリア

掃除中のうっかり事故に注意

● KfVウェブサイト <https://www.kfv.at/putzen-ohne-zu-stuerzen-rund-60-verletzte-pro-tag-bei-alljaehrlichem-fruehjahrsputz/>

日本では年末の風物詩となっている大掃除だが、オーストリアでは長い冬が終わると、各家庭で「春の掃除」と呼ばれる大掃除を行う習慣がある。明るい日の光が家の中を照らす季節、窓を開け放って、冬の間にとまった家の中の汚れを落とすのである。

しかし、KfV(オーストリア交通安全機関)が過去5年間のデータを調べたところ、3~4月の大掃除中、1日当たり約60人が病院で治療を要するけがを負っていたことが分かった。最も多い類型は「転倒・転落」(61%)だという。例えば、はしごを使わずに窓枠に登り、窓掃除中に落下する事故などがあつた。また、折り畳み式はしごを使う際も、バランスを崩しやすいので要注意だという。次に「物にぶつかる」(20%)、「鋭利な物で負傷」(10%)と続く。

大掃除中にけがをした人を男女別割合でみると、

女性が74%(2022年)と多数を占める。その理由としてKfVは、家の掃除が女性に任されている現状を指摘する。KfVの調査によると、国内在住者のうち、定期的に住居の掃除をする習慣がある人は86%だが、まったく(めったに)掃除をしない人は女性の4%に対し、男性が24%だという。ただし、この5年間で掃除中にけがをする男性の割合が増えていることから、男性も掃除に協力するようになったのではないかとKfVは推測する。

さらに、小さな子どもがいる家庭は、特に注意が必要であると警告する。子どもは、掃除用具やはしごなどが置かれた普段と異なる環境に興味を示し、思わぬ行動をとることがあるからだという。そこで、窓を開けたまま、子どもだけ残して部屋を移動しないよう注意を促している。



ドイツ

眼鏡の曇り止め剤に含まれる有害物質PFAS

● ドイツ消費者センター総連盟ウェブサイト

<https://www.verbraucherzentrale.de/wissen/umwelt-haushalt/produkte/antibeschlagmittel-fuer-brillen-warnung-vor-giftigen-inhaltsstoffen-55396>

● 連邦環境・自然保護・原子力安全・消費者保護省ウェブサイト <https://www.bmuv.de/faqs/per-und-polyfluorierte-chemikalien-pfas>

新型コロナウイルス感染症の流行を契機として、ドイツでも流通するようになった生活用品がマスクである。それまで、日常生活でマスクを着用する習慣のなかったドイツ人にとって、特に困るのがマスク着用時の眼鏡の曇りだという。そこで、スプレー、ジェル、泡状など、市販の曇り止め剤を利用する消費者もみられる。

しかし、曇り止め剤の一部には、健康と環境に有害なPFAS(ペルフルオロアルキル化合物及びポリフルオロアルキル化合物の総称)が含まれるとして注意を促すのがドイツ消費者センター総連盟である。同物質は有機フッ素化合物の一種で、水や油をはじく表面処理剤等として、食品容器やアウトドア衣料等にも広く使われているのだという。自然界でほとんど分解されずに、人間や動物のからだに蓄積

するといわれている。EUも同物質の有害性に注目しており、今後、厳格な規制が予定されているという。

そこで、同連盟はPFASを含む曇り止め剤を使わないよう警告する。ところが、成分の記載のない商品も少なくないことから、PFASが含まれるかどうか、消費者にとって分かりにくいのが現状である。このように成分が分からない場合も、購入を控えたほうがよいと助言している。

さらに同連盟は、曇り止め剤を使わなくても眼鏡が曇りにくい方法を紹介している。まず、マスクで鼻をしっかりと覆い、顔に密着させたいうえで、マスクの上部に眼鏡の下部を重ねるのがコツだという。レンズに洗剤液や石けん液を薄く塗る方法もあるが、レンズの種類によっては表面を傷めることがあるので、事前に眼鏡店で確認するよう勧めている。